

平成 9 年 4 月 1 5 日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 Tel0428-23-6859)

水窪排水記念碑

青梅市の東端付近に位置する、今井 3 丁目の水窪公園がある窪地は、立川断層の活動によって形成された凹地です。立川断層は東京都内では唯一の明瞭な活断層で、水窪公園付近ではほぼ南北方向に走り、全長は約 2.5 km の規模です。

ところで、この水窪公園の北端には、「水窪排水」と称する記念碑が建てられています。碑は高さ約 2.0 m の台座の上に乗っており、その大きさは高さ約 1.8 m、幅約 75 cm、厚さ約 15 cm で、頁岩質のりっぱな石碑です。この記念碑は、昭和 51 年にこの地区で区画整備事業が行われるまでは、公園の北方にある昭和構造工業（株）の敷地（青梅市今井馬場崎 1147 番地）の南西端に建てられていましたが、区画整備の際に、現在の位置に移されたと伝えられており、さらにそれ以前には、矢端堀の脇に建てられていたとも伝えられています。

さて、この記念碑には、向かって右側には次の説明が彫られています。

碑

記

四方 小高き地形に囲まれたる当地は 古来より長雨による湧水に悩まされし事 数を知らず 被害又甚大なり 偶々明治 43 年 8 月 畑 10 万平方メートル家屋 10 余戸 中心部に於ける水深 3 米に及ぶ深水有り 因て関係者会議の上 種々の困難を押し全長 500 米最大 4 米 幅 1.5 米の堀割を作り排水し 数ヶ月後之に土管を埋没し暗渠と成し後 昭和 3 年出水を機に第二期工事として残り 半分の暗渠排水工事完成後代の優ひを除去し 昭和 4 年 5 月今井馬場崎 1147 番地に石碑を建立し 工事の無事完成を祝せり 此の度 三原地区区画整備事業の促進に伴い 核石碑の撤去の己むなきに至り 故に市及び関係者の協力のもとに 昭和 51 年 3 月当公園に再建し 爾後青梅市の保管となる事と成れり 茲に先賢居住民の苦勞を偶び 遺徳を譚えりと俱に之を記念し 碑文を刻み 伝え置くもの也

昭和 51 年 3 月

さらに記念碑の裏面には、出水の事実や工事などについて刻られていますが、この中で興味を引くのは、明治 43 年 8 月の浸水の際に、西秋留村の瀬沼伊兵衛・青梅町の根岸太郎・成木村の木崎兵六の 3 人が、それぞれ金 50 円を寄付していることです。これらの諸氏が個人で寄付したのか、あるいは町（村）長として寄付したのかは明らかでなく、さらに、どのような理

由で遠方の人物が寄付したのかについても興味を持つところです。

話は自然地理学的なことになりますが、霞川と矢端堀の間では、地表面付近の厚さ5～6 mの関東ローム層の下位には、藤橋粘土層と称する灰白色で厚さ2 m前後の粘土層があり、その下位には砂礫層が広がっています。この藤橋粘土層は地下水を通し難いため、大雨の後には矢端堀や霞川に面する段丘崖で地下水を涌出させ、付近に内水泡濫を起こす原因になっているのです。

(文責 角田)
